

みわ 三輪周辺の古墳探訪

立子塚古墳

～ 体験しよう！桜井の古墳ワールド！ ～

三輪山の西麓地域は纏向川と初瀬川とに挟まれたいわゆる”瑞垣”と呼ばれた地域で、古代より三輪山祭祀の行われる場所として聖域化されてきた地域として知られています。従ってこの地域は、古墳の築造はもとより集落すら営むことも避けられた特別な場所だったと思われます。

そんな中でも例外的に茅原狐塚古墳、茅原大墓古墳、弁天社古墳など中期から後期にかけての古墳の築造が行われています。おそらくこれらの古墳の被葬者は三輪山に対して特別な関係を持つ豪族の墳墓と考えられます。

ほかにも三輪地域とは若干離れますが、豊富な副葬品で知られる国史跡の珠城山古墳群や一人では行きにくい立子塚古墳もこの冊子で紹介していますので参考にしながら探索いただき、古代のタイムカプセルともいべき古墳の数々を体験頂ければ幸いです。

モデルコース(※全行程約8km)



※景行天皇陵(渋谷向山古墳)は天理市に所在する古墳ですがコースの編成上入れてあります。

古墳探訪・・・その前に

日本のはじまりの地、桜井市には、女王卑弥呼の墓ではないかと言われる箸墓古墳をはじめヤマト王権発祥の地に相応しい古墳が数多く残ります。そんな桜井の古墳の中でも三輪地域は早くから文化の開けたところであり、そこに営まれた墳墓は歴史上重要な意味を持つものと考えられます。そんな三輪地域周辺にスポットを当て探訪可能な、おすすめの9基の古墳についてご案内いたします。出かける前には以下の事に留意され古墳探訪をして頂くようお願いいたします。

① マナーを守ろう！

- 今回、ご案内の古墳の多くは墳丘に上ったり、石室に入って見学できますが古墳は文化財であると同時にお墓であるという事を忘れてはなりません。
- 近くに所有者の方や、ご近所の方がおられれば、お声がけしましょう。
- 古墳の石材や遺物を持ち帰ることは法律により罰せられます。
- 茅原狐塚古墳は民有地の畑にありますので農作物等にふれることのないようお願いいたします。

② 安全に！

今回のコースは比較的平坦なコースとなっていますが、場所によっては坂道や階段があったり、石室の開口部が狭い古墳もありますのでくれぐれも安全対策の上、お出かけください。

(このコースでは軽登山靴、ウォーキング用の杖、軍手、帽子、磁石、懐中電灯、スマートフォン等の装備をおすすめします。)

三輪周辺古墳マップ

●印はこの冊子で紹介している古墳

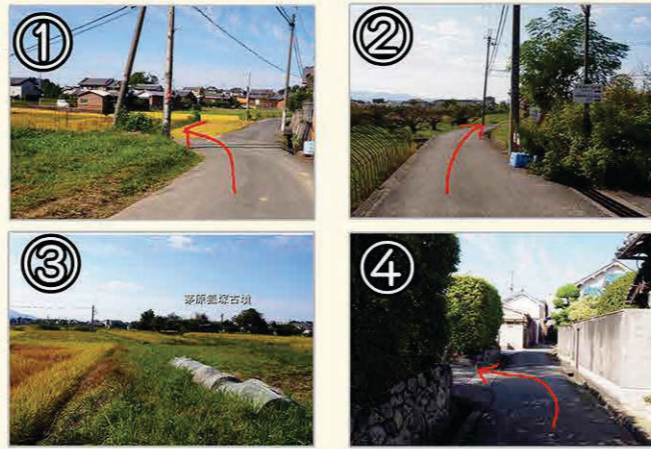
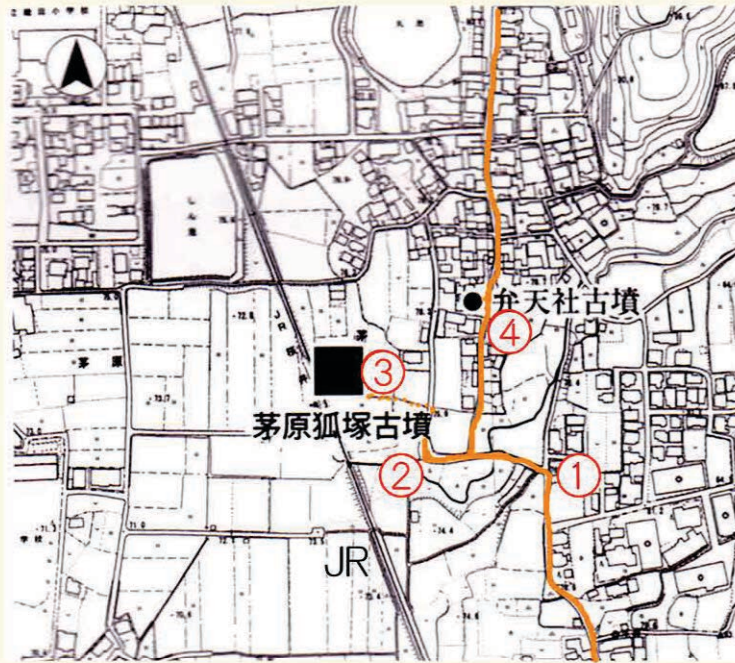


このマップは桜井市文化財協会発行の「桜井の横穴式石室を訪ねて」から引用しています。(一部加筆)

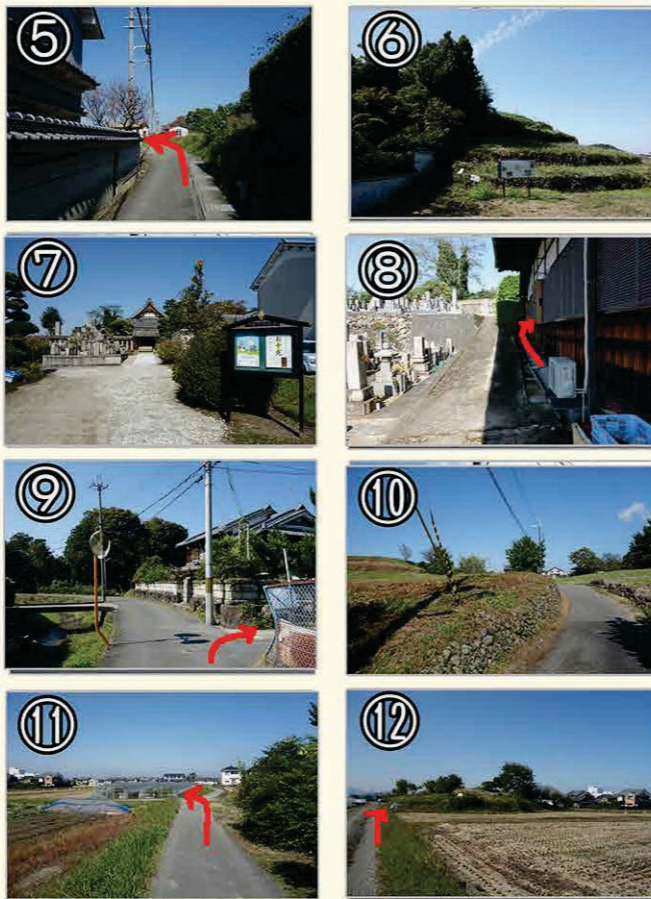
古墳探訪ガイド

茅原狐塚古墳・弁天社古墳

茅原大墓古墳・慶運寺裏古墳・ホケノ山古墳・巻野内石塚古墳



①茅原集落に入る手前の道を左折れます。
 ②道なりに進むと、右折れとなり田園風景がひろがります。
 ③すぐにJRの線路沿いに茅原狐塚古墳が見えてきます。
 足元に気を付けてあぜ道を通り到着です。
 ④弁天社古墳へはマップのように来た道をいったん引き返し茅原集落に向かう道に入ります。少し入ると左側に神社があり、社殿の背後に弁天社古墳があります。

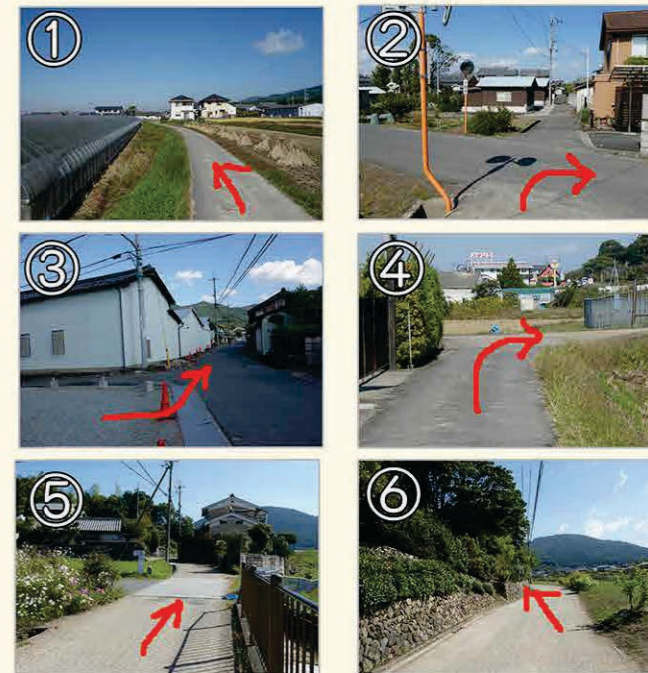
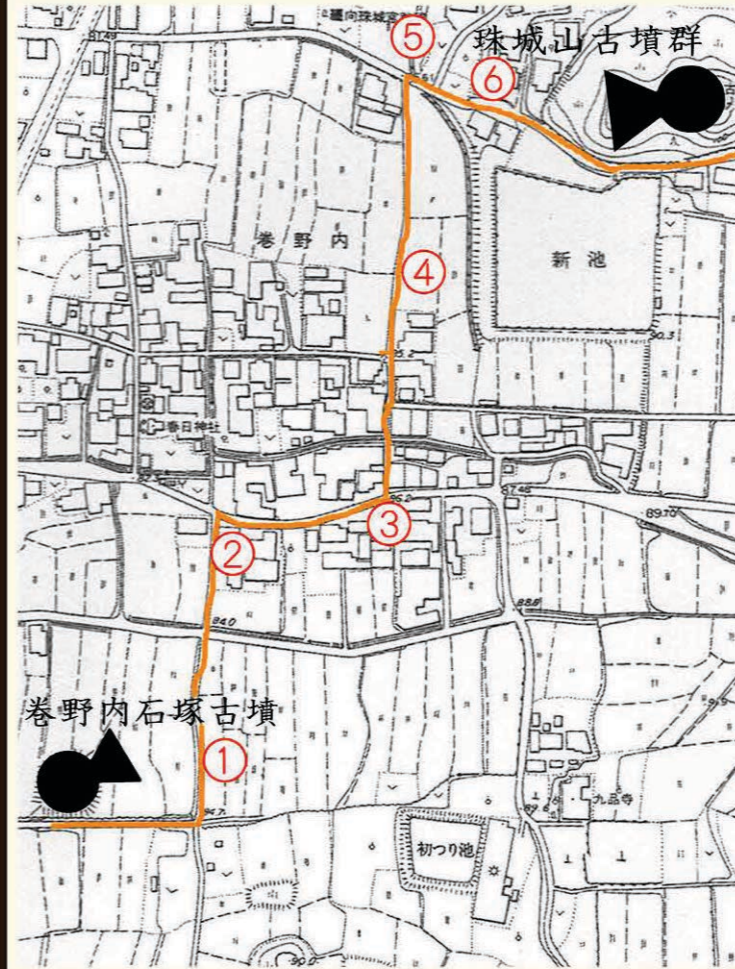


⑤更に北上すると集落のはずれに茅原大墓古墳があります。
 ⑥左手の小山が茅原大墓古墳です。墳頂まで上れます。
 ⑦マップを参考に慶雲寺に向かいます。
 ⑧本堂の建物の裏に古墳があります。石棺仏もお忘れなく。
 ⑨マップと写真を参考に右折しホケノ山古墳に向かいます。
 ⑩すぐに左手にホケノ山古墳の墳丘が見えてきます。
 墳頂まで上り素晴らしい景観を体感しましょう！
 ⑪更に北に向かい十字路を左折します。
 ⑫道のすぐ右側に巻野内石塚古墳が見えます。

マップは桜井市文化財協会発行の「桜井の横穴式石室」より引用(一部加筆)

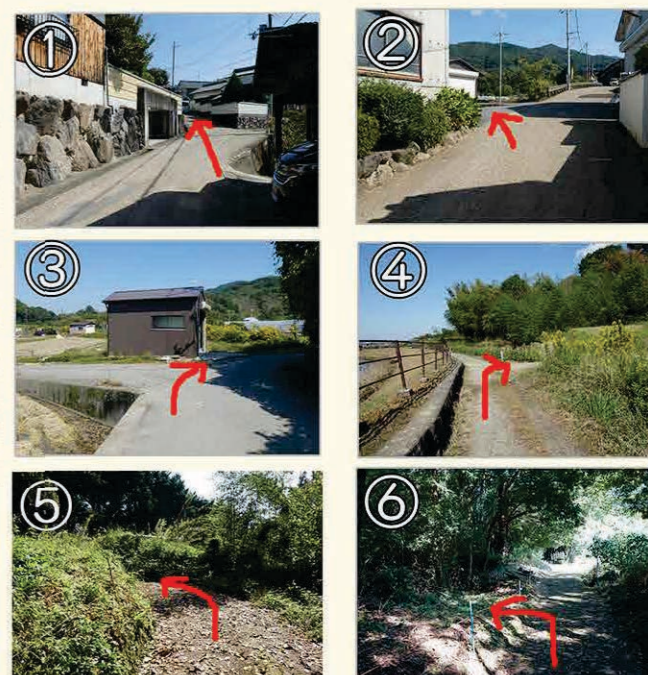
探し難い古墳を写真地図でご紹介！

珠城山古墳群



①巻野内石塚古墳を後に左折れし北に向かいます。
 ②県道のカーブミラーを右折れます。
 ③すぐに左折れし、また北に向かいます。
 ④珠城宮跡の石塔の手前を右折れます。
 ⑤左手前方に珠城山古墳群が見えてきます。
 ⑥古墳への上り口は数か所ありますが一番奥の階段がおすすめ。

立子塚古墳・景行天皇陵



①珠城山古墳群を出てすぐ矢印の方向に進みます。
 ②すぐに下り坂の道に進みます。
 ③写真の小屋の前の道を右側に進みます。
 ④しばらくマップ通り道なりに進み右折し坂道を上ります。
 ⑤道なりにマップのように進みます。
 ⑥手前の矢印のあたりから墳丘伝いに入ると大きく凹んだ所があり上を見上げると石室の開口部が見えてきます。

マップは桜井市文化財協会発行の「桜井の横穴式石室」より引用(一部加筆)

三輪周辺の古墳探訪(1)

巨大石室に眠るのは三輪氏一族か？ 茅原狐塚古墳



(茅原)

墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
方墳	一辺40m	横穴式石室	7C前半	

JR桜井線の三輪駅から巻向駅に向かって700mの東側の線路脇にあります。墳丘は元々一辺が40mはあるかという大型の方墳ですが、現在は南西方向がJRの線路の造成工事や畑地への開墾で大きく削られ1辺30m前後になり石室の封土も殆ど失われています。

三輪山麓に残る数少ない巨石を使った大型の横穴式石室で、桜井市倉橋にある国史跡の赤坂天王山古墳に匹敵する規模を誇ります。研究者によると当古墳の石室は御所市の水窪塚古墳の石室との共通性が認められ同一の工人集団で造られた可能性を指摘しています。

尚、横穴式石室の場合は追葬される事が多く見受けられますがこの古墳の場合は例の少ない玄室内に3棺が並列埋葬されているのも特徴です。羨道部は11mと長大で奈良県内でも屈指のもですが、そのうち3.5mは追葬時に拡張した可能性が大きいとされていますが、それを差し引いたとしても長大な羨道を持つ古墳です。

老木と石室が共存する ② 弁天社古墳

(茅原)

墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
不明	不明	横穴式石室	6C末～7C初頃	

三輪山麓において横穴式石室と石棺が残る数少ない古墳です。茅原集落の富士神社・巖島神社境内の小さな祠の裏で老樹の下で必死に耐えているのがこの古墳、まるでタコの足が絡みついているようにも見えます。

両袖式の石室は写真のように封土はなく石室が露出しています。羨道部は未開口ですが、玄室が半壊状態のため奥壁の崩れかけた隙間から石室内に入ることが出来ます。

石棺はもともと玄室部と羨道部に1棺ずつ埋葬されていたようですが玄室部のは破壊され石棺の一部が残っているだけです羨道部の追葬用と思われる石棺が半分、埋まった状態で残っています。この地域では珍しい縦抜式石棺です。

築造時期は未調査の為、明確ではありませんが石室や石棺から6世紀末から7世紀初めと思われます。

日本最古の盾持ち人埴輪が出土した ③ 茅原大墓古墳

(茅原)

墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
帆立貝式前方後円墳	復元長86m	粘土槨	4世紀末頃	

河合町の乙女山古墳と並ぶ代表的な帆立貝式前方後円墳で地元では倭佐保姫の御陵として伝えられています。墳丘は全長約86m(復元長)、後円部径約72m、高さ約9m、前方部長さ約15m、高さ約1m。埴輪及び葺石あり。前方部を北に向け周濠の痕跡と見られる池(小池と丸池の一部)が残っています。

埋葬施設は従来不明とされてきましたが2013年12月に墳丘の地中物理探査が行われ粘土槨の可能性が高いことがわかっています。墳丘の調査での出土遺物は円筒埴輪、朝顔形埴輪、蓋形埴輪、壺形埴輪などがありますが、特に第4次調査で発見された日本最古級の人物埴輪は大きな話題となりました。人の形を模した「盾持ち人埴輪」で、墳丘東側のくびれ部付近に流れ落ちた状態で発見されました。この盾持ち人埴輪は、邪悪なものから古墳を守るため、古墳外縁部に置かれたと思われる

三輪周辺の古墳探訪(2)

お寺の中にある横穴式石室 ④ 慶運寺裏古墳



(箸中)

墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	直径13m前後	横穴式石室	6C後半～末頃	



ホケノ山古墳のそばの慶運寺というお寺があり、このお寺の本堂の裏に静かに佇むのが慶運寺裏古墳です。石室は両袖式横穴式(全長4.3m以上、玄室長3.5m、幅1.7m、高さ2m以上)で南面に開口しており中に入れます。羨道部は玄門部が残っているだけですが、玄室部の保存状況は良好です。お寺の境内という事で破壊されずに今日まで守られてきました。ただ墳丘の封土は、かなり流出し、天井石と思われる石材が一部露出しています。

慶運寺周辺には6基の古墳があったようで、その中のひとつから出土したと思われる石棺(鎌倉時代)が慶運寺本堂南西にあります。割抜式石棺の身の部分で阿蘇の凝灰岩製(通称ピンク石)として知られています。桜井市には、この珍しいピンク石石棺を持つものとして兜塚古墳や金屋の石仏の収蔵庫の下に置かれたミログ谷石棺があります。

箸墓より古い可能性も・・・ ⑤ ホケノ山古墳

(箸中)

墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
円墳	全長80m	石囲い木槨	3C中頃	



箸墓古墳のすぐ東に位置する前方後円墳で全長約80m、前方部長約25m、高さ3.5m、後円部3段築成で径約55m、高さ8.5m、前方部を南東に向け、後円部側に周濠遺構が巡っています。葺石を持つ古墳ですが埴輪はありません。埋葬施設は後円部中央にあり、大和の古墳では初の事例となる石囲い木槨に長さ5mの割抜式木棺が収められていました。この他、後円部の主体部西側に6世紀末頃の横穴式石室、そして前方部の東斜面に木棺直葬の埋葬施設をもっています。

出土遺物としては二重口縁壺、銅鏃、鉄鏃、素環頭大刀、鉄製刀剣類、鉄製農具、画文帯同向式神獸鏡、内行花文鏡の破片などが検出されています。築造年代は3世紀中頃と考えられ、豊鍬入姫命の墓との伝承が残っています。墳丘の上には自由に登れますので卑弥呼の里の素晴らしい景観をお楽しみください。

纏向型前方後円墳か？

⑥ 巻野内石塚古墳

(巻野内)

墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
前方後円墳？	全長60m	不明	3世紀代？	



桜井市巻野内にある古墳です。従来、纏向遺跡東端のホケノ山古墳周辺の古墳の多くは6世紀の円墳と見られていましたが、測量調査や研究成果で纏向型の前方後円墳の可能性が高いものが含まれている可能性が指摘されています。この巻野内石塚古墳の場合も現状は径40mの円墳状になっていますが全長60m、後円部径40m、前方部長20mの前方部を北東に向ける纏向型の前方後円墳に復元できる可能性があり、北東部を注意深く見るとあぜ道にその痕跡らしきものを今も見ることが出来ます。

未調査ですが道路沿いの後円部の位置に相当する場所にある石垣の一部に、この古墳の葺石が転用された可能性があります。近くのホケノ山古墳も葺石を持つ数少ない纏向型の前方後円墳であり、大きさも2/3などの類似性もあり、ホケノ山古墳を盟主とする3世紀代の築造の可能性も考えられます。

三輪周辺の古墳探訪(3)

前方後円墳が三基並ぶ

⑦ 珠城山古墳群(1号墳)

(穴師)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
前方後円墳	全長50m	横穴式石室	6C中～後半	国史跡

穴師集落の小さな尾根上に位置する3基の前方後円墳で国史跡に指定されています。築造時期はいずれも古墳時代後期(6世紀)で、2号墳→1号墳→3号墳の順に築かれたと考えられます。

このように3基の前方後円墳が縦に並んでいるのは珍しい事例です。現在3号墳は前方部の一部を除き土取りにより消滅していますが、1号墳の横穴式石室及び1・2号墳の墳丘は自由に見学が出来ます。発掘調査は1955年から5回にわたり調査され馬具をはじめ豪華な副葬品が出土した事で知られています。

1号墳は全長50m、前方部を東に向けています。後円部に南に開口する4.7mの横穴式石室があり組合式の石棺がありました。(榎考研で保管)石棺内や周辺から人骨や挂甲、刀子、ガラス製小玉、環頭太刀、武器類、工具類、金銅製勾玉、銀製空玉、琥珀製棗玉、鞍金具等の馬具類等多種多様の副葬品が出土しています。築造時期は6世紀中～後半と考えられます。

当地域では最大の巨石墳

⑧ 立子塚古墳



(穴師)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
不明	不明	横穴式石室	7C前半	

天理市の柳本にある渋谷向山古墳(景行天皇陵)の南東にあり、古くは「立子の石塚」と呼ばれていました。当古墳は前期古墳の多い柳本古墳群の中にありますが、巨石を用いた切り石状の横穴式石室を持つ7世紀前半の古墳です。

石室は羨道部が半壊していますが、玄室部は大きめの石材が使われ直径20m、高さ4mの円墳で両袖式の石室は玄室長4.8m、幅2.1m、現高約2.5m、羨道部は現状で約1mのみ残存しているようですが発掘調査が行われていないので詳細は不明です。

現状、写真のように開口している玄門部は土砂が堆積し、極端に狭いうえに急激に落ち込んでおり、無理して入れても出るのが大変なので細心の注意が必要です。(単独での行動は避けてください。)

築造時期は出土遺物等は不明ですが、石室構造から7世紀前半頃と考えられています。

前期古墳としては最大の規模を誇る

⑨ 渋谷向山古墳

(天理市渋谷町)



墳形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備考
前方後円墳	300m	不明	4世紀末	陵墓

第12代景行天皇の陵墓として、宮内庁で管理され、周辺の古墳3基が陪塚に指定されています。幕末の文久の修築事業中に崇神天皇陵から景行天皇陵に治定変更されました。地区の名を取って「渋谷向山古墳」とも呼ばれています。東側から伸びる丘陵の尾根を利用した傾斜地に築かれています。前方部を西に向け墳丘は前方部3段、後円部4段築成と考えられています。周濠は10か所の渡堤により階段状に区切られていますが水利目的で後世に改修されたものである可能性があります。

埋葬施設については不明ですが後円部の頂部に径42mの平坦面があり、複数の埋葬施設の存在が推定されています。築造年代は、出土した土器から4世紀後半とされ崇神天皇陵に続いて造られた大王の墓です。出土遺物は埴輪や土器などしか見つかっていませんが、伝世品としては関西大学所蔵の石枕があります。1864年の出土とされ、大王の頭部を飾るのにふさわしい優品です。